

# 親子で考えたい 情報メディアとの付き合い方



岩手県立生涯学習推進センター

所長 佐藤 寛

子育て中の皆さん、夕食後のだらんの時間は持っていますか。せっかく家族みんなが居間にいても、それぞれが、テレビを見たり、スマートフォンやゲーム機を操作したりして会話のない状態が普通になってはいないでしょうか。

## 情報メディアをめぐる課題

スマホやパソコン、ゲーム機等の情報メディアの普及はここ数年で急速に進んでおりますが、様々な問題も表出しております。昨年七月には、「ゲームアプリ」「ポケモンGO」が配信され、これによって「歩きスマホ」が急増し、大人に至っては「ながら運転」による交通死亡事故が発生させるなど、社会的な問題になったことは記憶に新しいところで

す。このほか「情報モラル違反」や「ネット依存」などの課題は多岐にわたっています。例えば、ゲームやSNS等のやり過ぎによる寝不足、生活リズムの乱れ、それに伴う学業

不振、情緒不安、それがエスカレートした「依存症」や「昼夜逆転の生活」など、「不登校」につながるケースも少なくありません。また、インターネットの「コミュニケーション」を利用して、児童買春などの犯罪に巻き込まれる十八歳未満の子供も年々増加し、昨年は一七三六人にも上りました。しかも、それは首都圏に限らず、地方の子供もかなり被害にあっているのです。

では、この情報メディアは「危険なので禁止にしてみまえばいい」のでしょうか。

例えばスマホは、電話やメール等の連絡ツールをはじめパソコンやデジカメなどの機能を備えた利便性の高いものです。また、買ひ物の支払いや保育施設の連絡帳のアプリなど、日常生活でも、欠かせない存在となっています。

こうした状況の中で大切なのは、子供に使わせないことではなく、どう使わせるのかを家庭や地域、社会全体で考えていくことです。

## 社会全体で取組む

県教育委員会では、教育振興運動において「みんなで教振！五か年プラン」を策定し、「情報メディアとの上手な付き合い方」を全県共通課題に掲げ、市町村や実践区等に取組を呼びかけています。

当センターでも、PTAや地域住民を対象とした出前による「情報メディア講座」を実施し、昨年度は五十六回の講座に、三千名を超える県民の参加をいただいております。受講者からは、「これに機会に親子で話し合いルールを決めたい。」とか、「地域でも話題にしてみんなで考えたい。」など、前向きな感想が多数寄せられております。



また、県PTA連合会でも昨年度の研究会（和賀大会）で「スマホ社会の小学生と親の役割」と題した講演や協議を行い、子供に機器を持たせる上での自覚を促しています。

各市町村でもPTAや教育振興運動などによる様々な取組が見られます。洋野町PTA連合会では、情報モラルや使用時間、フィルタリングの設定など五項目からなる「小中学校親子の情報端末使用ルール」を定めました。個々の家庭だけでは徹底しにくいルールを、地域全体で守ろうとする素晴らしい取組みです。

このほか、各小・中学校等でも児童会や生徒会が中心となって子供自らがルールを決め、よりよい生活を目指した活動が広がっています。

## 親子のふれあいを大切に

各家庭ではこうした地域や学校の取組を踏まえながら、親子でしっかり話し合うことが大切です。ある市の調査によると「我が家にはルールがあるか」という問いに、「ある」と回答した中学生は二七％、保護者は四二％とかなりのズレが見られました。スマホ等を与える際の話し合いによるルール作りと定期的なふれあいの必要性を感じます。次に親として留意したいことは、「大人の情報メディア

との付き合い方」です。子供が話しかけても、親がスマホに夢中になって相手にしないようでは、子供がルールを守られるはずがありません。手本となるべき大人がスマホは脇におき、しっかりと子供と向き合う必要があります。

ただでさえコミュニケーションをとることが苦手な子供が増えています。スマホ等の時間を減らし、その分少しでもふれあいの時間を作り、直接話すことの楽しさをお互いに味わうことが大切です。今日は家族にこれ話を話そうと、楽しみに帰宅するような子供が増えることを願っています。

## プロフィール

佐藤 寛 (さとうひろし)

- 国立花山少年自然の家・県青少年女性課・県教委生涯学習文化課勤務
- 久慈市小国小・遠野市小友小・北上市笠松小の各校長
- 2016年度より現職

※小国小、小友小は複数校存在するため、市名を入れました。

標語

「握る手は

スマートフォンより

子どもの手」

全国高P連賞に岩手県立盛岡農業高等学校の生徒さんの標語が選ばれましたので紹介します。

村上 一江 (2年)